

2021年9月
～
2022年3月 卒業生
ご採用担当者の
みなさまへ

まっすぐ・まじめ

理工学部・総合情報学部

● 学部

理工学部

機械工学科
生体医工学科
電気電子情報工学科
応用化学科
都市環境デザイン学科
建築学科

● 学部

総合情報学部

総合情報学科

● 大学院

理工学研究科

機能システム専攻
生体医工学専攻
電気電子情報専攻
応用化学専攻
都市環境デザイン専攻
建築学専攻
建築・都市デザイン専攻

学際・融合科学研究科

バイオ・ナノサイエンス融合専攻

総合情報学研究科

総合情報学専攻



東洋大学

● 学部・学科(研究科・専攻)別／学年別／男女別学生数～4月+10月入学～

2020年5月1日付

学部・学科名		1年			2年			3年			4年			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
理工学部	機械工学科	172	11	183	171	7	178	169	11	180	205	7	212	717	36	753
	生体医工学科	85	30	115	84	29	113	93	19	112	89	32	121	351	110	461
	電気電子情報工学科	112	5	117	94	6	100	105	6	111	123	12	135	434	29	463
	応用化学学科	103	45	148	108	35	143	98	36	134	118	43	161	427	159	586
	都市環境デザイン学科	99	13	112	91	19	110	101	17	118	98	19	117	389	68	457
	建築学科	108	44	152	109	42	151	108	34	142	143	44	187	468	164	632
	計	679	148	827	657	138	795	674	123	797	776	157	933	2,786	566	3,352
総合情報学部	総合情報学科	197	60	257	204	60	264	225	63	288	220	82	302	846	265	1,111
合計		876	208	1,084	861	198	1,059	899	186	1,085	996	239	1,235	3,632	831	4,463

研究科・専攻名		修士課程・博士前期課程									博士後期課程									合計							
		1年			2年			計			1年			2年			3年						計				
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
理工学研究科	機能システム専攻	18	2	20	15	0	15	33	2	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	2	35
	生体医工学専攻	12	3	15	8	1	9	20	4	24	1	1	2	0	0	0	2	0	2	3	1	4	23	5	28		
	電気電子情報専攻	7	1	8	5	0	5	12	1	13	0	0	0	1	0	1	2	0	2	3	0	3	15	1	16		
	応用化学専攻	11	6	17	6	4	10	17	10	27	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	2	18	11	29		
	都市環境デザイン専攻	3	0	3	4	2	6	7	2	9	設置していない									7	2	9					
	建築学専攻	18	3	21	12	4	16	30	7	37	設置していない									30	7	37					
	建築・都市デザイン専攻	設置していない									0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	2	2	0	2		
計	69	15	84	50	11	61	119	26	145	1	1	2	1	1	2	7	0	7	9	2	11	128	28	156			
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	4	2	6	9	1	10	13	3	16	0	0	0	0	1	1	2	4	6	2	5	7	15	8	23		
総合情報学研究科	総合情報学専攻	11	5	16	7	4	11	18	9	27	1	3	4	2	2	4	6	1	7	9	6	15	27	15	42		
合計		84	22	106	66	16	82	150	38	188	2	4	6	3	4	7	15	5	20	20	13	33	170	51	221		

※建築・都市デザイン専攻は後期課程のみ

● 理工学部および総合情報学部 3年次学生 出身県別／男女別 学生数

2020年5月1日付

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県
男	8	3	5	2	3	4	11	29	40	32	291	28	185	44	20	4	1	1	8
女	-	-	-	2	1	2	5	9	3	11	51	8	41	4	4	-	1	-	1
総計	8	3	5	4	4	6	16	38	43	43	342	36	226	48	24	4	2	1	9

	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県
男	20	2	20	8	1	1	2	4	3	-	2	-	-	3	3	2	2	-	3
女	3	-	5	1	1	-	-	3	1	1	-	2	-	-	1	-	2	1	1
総計	23	2	25	9	2	1	2	7	4	1	2	2	0	3	4	2	4	1	4

	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	中国	韓国	ミャンマー	マレーシア	タイ	インドネシア	イタリア	総計
男	2	6	1	5	1	2	1	4	74	2	2	1	1	1	1	899
女	-	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	186
総計	2	6	1	5	1	2	1	4	95	2	2	1	1	1	1	1085

理工学部 学科紹介

機械工学科

「機械工学」は、21世紀の科学技術の基盤となる重要な学術分野です。いま、豊かさを失うことなく持続可能な社会を追求し続けるために幾多の技術開発が望まれています。このため、機械工学の分野においても、異分野との融合や協働による新たな展開が日々求められています。学科の教育理念は、機械工学に関わる主要な基礎を徹底して修めることにあり、この盤石な基盤に立って、ものづくりの実践と「デザインする能力」の醸成に注力しています。

こういった方針の元に機械工学科教育プログラムを構成し、以下の能力を備えた学生を育成しています。

- (1) 機械工学の根幹である「材料力学」、「機械力学」、「熱力学」、「流体力学」、「計測工学」、「制御工学」の基礎を理解している。
- (2) 技術的な問題に対して、機械工学の観点から分析し、その解決策を検討・考察することができる。
- (3) 機械設計（手描き製図・3D-CADを含む）に関する基礎的な技能を有し、また技術文書の作成・技術プレゼンテーションを通じて自らの考えを的確に表現・発表できる。
- (4) 社会の環境・安全に深い理解を持ち、相手の立場・考え方を尊重しつつ自分の考えを展開できる倫理観と責任感を身に付けている。

※ 機械工学科の教育課程は機械および機械関連プログラムとして日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けています。



2年次配当科目「設計論の基礎と製図」における授業風景



PBLの例：グループで協力し生体医工学関連の業界研究

「生体医工学」は、医学・生物学と工学を融合させた裾野の広い学問です。本学科では、解剖学、脳・神経科学、薬理学、臨床医学といった生物・医学系の科目と、機械工学、プログラミング、電気工学、医用電子工学といった工学系の科目をバランス良く学ぶことで、人のための「ものづくり」に必要となる広い視野・深い専門性・倫理観を併せ持つ人材を養成しています。1-2年次では基礎学力を徹底的に鍛えると共に、必修科目「プロジェクト」において社会人基礎力、語学力、プレゼンテーション能力を磨くことで、これからの社会の激しい変化に対応できる強靱な人材を育成します。また、学生実験や卒業研究では現実的・実践的なケーススタディを重視(PBL)することで、具体的な課題を解決する能力や協調性を養います。

本学科では医療機器のスペシャリスト「第2種ME技術実力検定試験」の合格に必要な科目群を用意しており、合格者を毎年輩出しています。また学科の専攻に加えて「副専攻」を履修することで、バイオテクノロジー・ナノテクノロジーや機械・電気工学のより専門的な内容を身に付けられます。

少子高齢化に対応する社会への転換は我が国の喫緊の課題です。本学科はこれからも社会の負託に応えられる多彩な人材育成を進めてまいります。

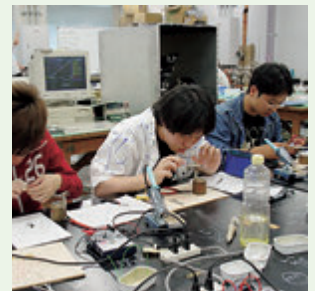
生体医工学科

電気電子情報工学科

本学科は次の3つの分野で活躍できる技術者を養成しています。

- ① 電力事業、電気設備、電力制御などの分野
- ② 新素材やLSIなどの電子デバイスの開発・設計などの分野
- ③ 電気通信事業、通信システム、電子機器製造などの分野

本学科はこれように広範な分野を対象としていますが、技術革新に適応できる徹底した基礎学力の習得・演習を踏まえた実践力の養成と、ハードとソフトの両技術力の習得を教育方針として専門教育を行っています。カリキュラムでは、「電気回路」「電子回路」「電磁気学」「プログラミング」「電気電子情報実験」を必修科目として、また、「電気主任技術者」「第一級陸上特殊無線技士」「第三級海上特殊無線技士」の資格取得に必要な科目を用意しています。「第二種電気工事士」の筆記試験と「電気通信主任技術者試験」を受験する際に「電気通信システム」の科目が免除となる認定校にもなっています。更に、新素材を開発するバイオ・ナノエレクトロニクス研究センターは、この分野に進む学部生と大学院生にとって格好の研究施設となっています。



電子回路の作製



先端材料合成実験

応用化学領域では、社会の要請に応えるため、広範な化学の基礎能力を持った上で、様々な先端分野で創造的かつ実践的に活躍できる人材を育成しています。すなわち、基礎科目を徹底的に理解させた後、どのような分野にも対応できるよう幅広い先端領域の教育を行っています。

特に本学科では、従来の石油化学を中心とした化学工業分野以外に、生化学や食品関連などを扱うバイオ・健康化学分野、リサイクルや環境問題などを扱う環境化学分野、およびエネルギー問題やセンサーなどを扱う先端材料化学分野を理解した人材を育成することが大きな特色です。また、卒業研究や教員との議論を通して、自ら考え判断でき行動できる能力や新しい分野を創造する能力を養成し、かつ報告書作成能力やプレゼンテーション能力を十分に持った学生を育てています。近年、化学を基盤とした分野が年々多様化する中、卒業生の産業界への進路も多岐にわたり、化学、繊維、印刷、化粧品、電子材料、食品分野などの製造業だけでなく、情報通信業、卸売業および金融業などの分野にも就職し、広く社会に貢献しています。

応用化学科

都市環境デザイン学科

安全で安心、健康で快適な生活を支える健全な都市システムの実現と、都市の持続的な発展につながる自然との共生を実践的にデザインできる「都市環境創出のスペシャリスト」を育成しています。環境問題の重要性が高まるにつれ、建設業界も「ものありき」から科学面が重視される時代となりました。また、高度経済成長期に造られた社会資本の多くは更新期を迎え、長寿命化対策や再構築を迫られています。さらに、地震・台風などの自然災害多発国の日本では防災に重点を置いた社会資本整備やまちづくりが進められてきましたが、2011年3月の東日本大震災により、人が安全で安心して暮らせる都市環境の在り方について根底から見直すことが迫られています。被災地の速やかな復旧・復興と、エネルギー問題や地球環境問題、さらには人口減少・少子高齢化が進む国土の強靱化に向けた取り組みに対して、ライフスタイルの転換を含めて、都市環境の構築およびマネジメントの必要性が加速されました。こうした価値観の転換を伴う総合的な課題に対して、その実現に向けた新工法や新技術を駆使でき、高い志と倫理観を兼ね備えた人材を育成しています。



ハツ場ダム見学会



3年次「建築設計製図Ⅲ」第16回まちかど講評会(2016)

「建物」や「まち」を対象として、誰もが住みやすい建物づくりを行うには、工学的な知識だけでなく、人々の生活、地域の歴史や文化などについて学ぶ必要があります。本学科では、建築に関する幅広い知識を持つ技術者や建築家の育成を目指しています。カリキュラムは「計画・意匠」「構造・材料」「環境・設備」「生産・マネジメント」「まちづくり」の5つの専門領域に分けて構成し、建築士受験資格の要件を満たすよう配慮されています。学内・学外をフィールドとした実験・実習・演習に大きなウェイトを置き、特に2年次の「建築設計製図Ⅰ・Ⅱ」、3年次の「建築設計製図Ⅲ」などの各種演習系の科目は、少人数により徹底した問題の把握と解決手法の能力を習得させ、各学年で必修としています。また、5つの専門領域に対応した選択科目の中から自分の適性やキャリア・デザインに基づいて講義を履修できるようにしています。建築について最先端の学問や技術を学ぶと同時に、社会との深い関わりの中で幅広い知識や総合的な判断力や豊かな人間性を身に付け、仕上げとして卒業研究を進め、卒業論文・卒業設計にまとめることを通して、自らの考えを表現する力を持った人材を育成しています。

建築学科

理工学部 専任教員研究分野一覧

機械工学科

氏名	研究分野	キーワード	研究室名
尼子 淳	光波工学、光デバイス	回折光学、サブ波長構造、プラズモニクス、空間光変調器	光波制御
大久保 俊文	高密度記憶、光総合分析システム	近接場光記憶、パターンメディア、光総合分析チップ(光TAS)	マイクロメカトロニクス
大辻 永	理数教育学、科学教育学、理科教育学	理科教育、科学教育、授業論、教授学、防災教育、人間と自然	理数教育
窪田 佳寛	バイオミメティクス、流体力学	自然界の形と機能、葉脈構造、水飛沫の形成、IoT、ICT	バイオメカニクス
新藤 康弘	医用システム工学、福祉工学、熟工学、電磁気学	リハビリテーション工学、低侵襲治療システム、温熱治療、有限要素法	医用機械工学
藤岡 照高	材料力学、材料強度、CAE	有限要素法、材料試験、クリープ、疲労、破壊力学、余寿命診断、事故調査	構造力学
鄭 宏杰	計算力学、データサイエンス	大規模数値シミュレーション、有限要素法、人工知能	
藤松 信義	航空宇宙工学、流体力学	宇宙往還機、風洞実験、推進工学、流体計測法、数値流体力学、摩擦抵抗低減	航空宇宙システム
松元 明弘	ロボット工学、メカトロニクス	自律分散型ロボットシステム、ロボットとIoT、自動化技術、人間支援ロボット	ロボット工学
松本 潔	センサ、メカトロニクス	知能機械、センサデバイス、計測、MEMS	知能機械システム
物部 秀二	微細加工、近接場光学、無電解めっき	近接場光学顕微鏡、光ファイバー、化学エッチング、スパッタ、ナノ加工	マイクロ・ナノ構造形成
森本 久雄	ソフトマター科学、バイオ・ナノ融合科学技術	複雑流体、ソフトマター、自己組織化、ナノテクノロジー、マイクロマシン	複雑流体
山川 聡子	制御工学、システム制御	非線形制御、スイッチング制御理論、マスタースレーブシステム、ロボットの運動制御	制御工学
山田 和明	人工知能、ロボット工学	マルチロボットシステム、学習アルゴリズム、自律ロボットによる地図生成	群知能ロボット
吉野 隆	応用数理、形の科学	確率モデル、形態解析、モンテカルロ法	応用数理
横田 祥	人間支援システム、ロボット工学	人間活動支援システム、ロボティクス、ヒューマンインタフェース、福祉システム	ヒューマンロボットインタラクション
和田 昇	機能材料学、物性物理学	太陽電池、燃料電池、ナノ構造物、インターカレーション、ラマン散乱、X線回折	機能材料

生体医工学科

氏名	研究分野	キーワード	研究室名
一川 大輔	運動生理学、スポーツバイオメカニクス、体育科教育学	アスリートパフォーマンス評価、弾道分析、暑熱耐性、教育実践、教育心理	スポーツ健康科学(川越キャンパス)
岩本 典子	英語教育学	TESOL、第二言語学習動機、理系の為のグローバルキャリア教育	
小河 繁彦	運動生理学、統合生理学、循環生理学	健康、スポーツ、血圧、脳血流、血管コンプライアンス	運動生理学
加藤 和則	腫瘍医学、免疫学、細胞工学	抗体医薬、遺伝子解析、診断薬、免疫学、腫瘍マーカー、幹細胞	分子細胞医科学
合田 達郎	バイオセンシング、バイオエレクトロニクス、バイオマテリアル	有機バイオエレクトロニクス、分子系バイオミメティクス、バイオインターフェース	バイオエンジニアリング
小島 貴子	キャリア教育、キャリア開発、職業指導	キャリア、職業	
小山 信也	数学、整数論、数理生物学	ゼータ関数、素数、ネットワーク、ランダム行列理論	ゼータ
田中 尚樹	生体信号処理、脳科学、非線形科学	生体信号、脳機能計測、因果分析、ブレイン・マシン・インタフェース	生体システム工学
寺田 信幸	生体工学、宇宙医学、環境生理学	医療、生体情報、 μ TAS、ロボット、ヘルスケア	メディカルロボティクス
堀内 城司	脳神経科学、自律神経科学	ストレス、自律神経、呼吸と循環、自律機能の中核制御、生理学の学習教材開発	ニューロサイエンス
マイケル・シュルマン	英語教育	TESOL、ジャーナリズムを応用した授業、理系の為のグローバルキャリア教育	
前川 透	ナノテクノロジー、バイオ・ナノ融合サイエンス	ナノテクノロジー、自己組織化、自己集積化、シンクロナイゼーション、パターン形成	ナノサイエンス
本橋 健次	原子物理学、放射線・プラズマ医学、表面科学	量子ビーム医学、医用材料開発、生体適合化	原子物理工学
山内 康司	医用工学、人間工学、精密工学	手術支援、医療安全、医用画像、ロボット、レギュラトリサイエンス	医療福祉支援工学
山崎 享子	応用健康科学	運動と免疫、ストレス応答、性差	生体情報学
吉田 善一	応用物理、マイクロマシン	マイクロ医療デバイス、レーザー、イオンビーム、ナノテクノロジー	ナノメディスン
吉田 崇将	神経科学、生体信号処理、脳機能イメージング	広域カルシウムイメージング、大脳皮質ネットワーク、多感覚統合、統合失調症	
吉田 宏予	英語、英文学、英語教育	異文化言語、文学とテクノロジー、理系の為のグローバルキャリア教育	

電気電子情報工学科

氏名	研究分野	キーワード	研究室名
木本 伊彦	電気通信工学、画像工学	映像通信、映像処理、映像符号化、マルチメディア	マルチメディア信号処理
草間 裕介	電磁波工学、マイクロ波工学	マイクロ波教育、電磁波回路、誘電率透磁率、電磁界シミュレーション	波動情報
堺 和人	電気機器、パワーエレクトロニクス	エネルギー変換、電力変換、環境、モータ、発電機	エネルギー変換・環境
佐野 勇司	アナログ電子回路、電子機器、色彩工学	アナログ電子回路、照明、オーディオ、電子ディスプレイ、色彩、視覚、消費電力	回路システム
篠永 英之	情報通信ネットワーク	無線LAN、電力線通信(PLC)、網シミュレーション	情報通信ネットワーク
柴田 絢也	物性理論物理学	物性理論、スピントロニクスの基礎理論	物性理論
中野 秀俊	レーザー工学	超高速・高強度レーザー制御、超広帯域光信号処理	光エレクトロニクス
根岸 良太	ナノ材料工学、固体電子物性、固体表面・原子層科学	ナノエレクトロニクス、バイオセンサー、ナノカーボン、結晶成長	機能創発ナノエレクトロニクス
花尻 達郎	半導体デバイス、電子材料	ナノエレクトロニクス、半導体デバイス、電子材料、 μ TAS	量子デバイス工学
平瀬 祐子	電気電子工学、電力工学・電力変換・電気機器、パワーエレクトロニクスシステム	スマートグリッド、再生可能エネルギー電源、電力変換、電力制御、交流機器、分散制御、電力システム、制御システム	パワーエレクトロニクスシステム
福井 伸太	電力系統工学、システム工学	次世代電力システムの計画、運用、制御、解析	電力システム
藤野 義之	衛星通信、アンテナ、無線電力伝送技術	アンテナ、無線電力伝送、レクテナ、衛星通信、宇宙太陽発電衛星	ワイヤレス伝送
山崎 丈明	基礎解析学	函数解析学、作用素論	函数解析
吉本 智巳	電子物理、半導体工学	電子物理、ワイドバンドギャップ材料、電子放射	真空ナノエレクトロニクス

応用化学科

氏名	研究分野	キーワード	研究室名
相沢 宏明	化学計測	光ファイバセンサ、センサ材料、化学センサ	化学計測
安藤 直子	食品化学、生化学、毒性学	食の安全性、マイコトキシン（カビ毒）、二次代謝産物の生合成経路	食品生物化学
井坂 和一	化学工学、生物化学工学、水処理工学	化学物質分解、窒素排水処理、高分子ゲル、固定化微生物、生物担体	環境工学
石井 茂	有機合成、機能性高分子合成	キチン、キトサン、多糖、エンブラ、ポリイミド	高分子材料
泉 克幸	大気化学	エアロゾル、酸性雨、乾性沈着、化学センサー	大気化学
勝亦 徹	結晶工学	単結晶、結晶成長、光学材料、酸化物結晶	結晶工学
蒲生(西谷)美香	材料化学、固体化学、表面化学	新炭素系材料（ダイヤモンド、カーボンナノチューブ）、二次電池材料	ダイヤモンド
シュ ジャウエイ	分析化学、生物化学	質量分析、円二色性分析、生体試料	分子分光
田島 正弘	有機光化学	分子軌道法、光反応、吸収スペクトル、ポリウレタン	有機光化学・有機材料
田代 基慶	理論・計算化学、原子分子物理	量子化学計算、分子動力学計算、分子モデリング	理論・計算化学
福島 康正	生体高分子、ナノ組織体、化学センサー	人工機能性タンパク質、両親媒性高分子、低分子ゲル、光センサー	生物有機化学
藤野 竜也	分光学、質量分析	レーザー脱離イオン化、時間分解分光	分子分光
峯岸 宏明	基礎生物学、農芸化学	極限環境微生物、好塩菌、酵素、系統分類、アストロバイオロジー、生命の起源・進化	生命工学
吉田 泰彦	高分子合成、プラズマ化学、機能材料科学	環境低負荷高分子、プラズマ重合、生分解性高分子、バイオセンサー	機能材料

都市環境デザイン学科

氏名	研究分野	キーワード	研究室名
青木 宗之	水理学、河川工学、環境水理学	魚道、魚類行動、河川生態、流体力、河川の流れ、樹木、植生	水工学
石田 哲朗	地盤工学、地下水工学、地盤環境学	不飽和土、浸透特性、地中応力、土圧、リサイクル、植生	地盤環境学
及川 康	災害社会学、土木計画	災害情報、避難行動、意識調査、防災計画、ハザードマップ	地域防災マネジメント
神山 藍	景観工学、ランドスケープデザイン	風景、ランドスケープ、都市計画、地域計画、GIS	景観計画・デザイン
久保寺 貴彦	空間情報学、測量学、道路工学、舗装工学	GNSS、GIS、CAD、地中レーザ	空間情報
鈴木 崇伸	構造工学、地震工学	地震動、耐震設計、ライフライン、防災計画	防災システム
新田 将之	地域環境工学、都市・農村計画	親水、地域計画、河川環境評価、住民参加、環境心理	水工学
二宮 仁志	建設マネジメント、社会システム工学	プロジェクトマネジメント、まちづくり、都市経営、地域再生、合意形成	社会システムマネジメント
村野 昭人	環境システム工学、環境評価	ライフサイクルアセスメント、資源循環、木質バイオマス、地中熱	循環評価システム
山崎 宏史	水環境学、衛生工学	排水処理、水環境、温室効果ガス、環境影響評価	水環境システム
横関 康祐	建設材料、土木施工、維持管理	環境負荷低減材料技術、生産性向上技術、耐久性向上技術	サステナブル材料・施工

建築学科

氏名	研究分野	キーワード	研究室名
秋山 哲一	建築生産、建築経済	住宅産業、品質システム、工事監理、建築コスト管理、技術者育成システム	建築経済産業
伊藤 暁	建築設計、意匠	地域性、ヴァナキュラーと現代建築、デザイン	建築設計
イム ウンス	建築環境・設備	空気環境、熱環境、CFD	建築環境
浦江 真人	建築構法、建築生産、工事管理	構法計画、建築施工、生産設計、コンストラクションマネジメント	建築マネジメント
岡本 和彦	建築計画、医療福祉施設	病院、医療、福祉、健康、Evidence-based Design、モバイル・ホスピタル	医療福祉施設
香取 慶一	建築構造、建築材料	コンクリート系構造、ハイブリッド構造、プレキャスト構造、新材料の開発、災害調査と被害要因分析	建築構造・材料
工藤 和美	建築意匠	学校、地域参加、デザイン	建築デザイン
江 文菁	建築計画、福祉施設	医療・福祉、地域ケア、高齢者・障害者の居住環境、富山型デイサービス	
篠崎 正彦	建築計画、環境行動研究	住宅、住宅地、アジアの集住、パブリックスペース	住環境計画
高岩 裕也	建築学、建築構造	伝統木造建築物、耐震工学、先端複合材料	
田口 陽子	都市計画、建築計画	公共空間デザイン、地域計画、まちづくり、都市居住、地域施設計画	地域デザイン
豊泉 正男	解析的整数論	素数、ゼータ関数、L関数、暗号	
日色 真帆	建築計画、建築設計	都市空間のわかりやすさ、建築の保存再生、建築の設計方法、住宅設計	建築・都市空間デザイン
李 文聰	建築構造	メガ部材、部材の挙動シミュレーション、新構造・新工法の開発	建築構造

● 総合情報学部 学科紹介

総合情報学部総合情報学科

情報社会の発展にともなって、製造業からサービス業、官公庁、農林漁業など様々な分野で、情報コミュニケーション技術（ICT：Information Communication Technology）が活用されています。ICTは多様化・細分化されており、高度情報社会を先導する人材には、物事を様々な視点からとらえ、本質を見極め、自ら問題を発見し、解決していく力が必要になっていきます。

さらに、ICTの利活用においては、情報技術の知識とあわせて、組織の業務やマネジメントに関する知識、データを活用する知識、メディアを駆使する知識、人間のからだやこころに関する知識など、幅広い知識を総合的に活用できる能力も必要になります。

現代社会においては、ICTを利活用した日常生活・業務の改革（DX：デジタルトランスフォーメーション）、国際的なビジネスの創出が求められています。企業では、ICTを利活用し、より高い顧客価値を生む商品・サービスを提供することが期待され、多種多様な経営戦略に応じたICT利活用を計画・実践することが求められています。

本学科では、文系・理系の枠を超え、幅広い教養と見識を身に付けた、情報の高度な利活用を先導する「第一級の情報の創り手・使い手」の育成を目指しています。



7号館視聴覚実習室（スタジオ）

● 総合情報学部 専任教員研究分野一覧

氏名	研究分野	キーワード	ゼミ名
青木 晃一郎	スポーツ科学、生体情報計測・解析	スポーツデータ分析、ストレングス&コンディショニング	心理とスポーツとIT
安達 由洋	知能情報処理、計算機科学	知能情報処理、人工知能、ビジュアル言語、グラフ文法、制約プログラミング	知能情報
石原 次郎	感性学、芸術学、教育論	感性の働き、芸術と社会、感覚と心理、感性と福祉、臨床心理に基づいた教育論	感性学
石村 光賢郎	エルゴード理論、多変量解析	力学系、エルゴード定理、統計解析、多変量解析	石村ゼミ
上原 稔	情報学/ソフトウェア	プログラミング言語、クラウドコンピューティング	分散システム
大塚 佳臣	都市環境工学、環境心理学	水利用システム、アメニティ、環境教育、合意形成、構造方程式モデリング、機械学習	都市社会環境システム
尾崎 晴男	交通工学、都市工学	高度交通システム（ITS）、地域計画、インパクト評価、交通安全	情報利活用
加藤 千恵子	スポーツ心理学、臨床心理学、アートセラピー	スポーツ心理、メンタルヘルス、ヨーガセラピー、アートセラピー、社会調査	スポーツ・心理・デザイン
金子 雅也	応用言語学、語彙習得論、英語教授法	英語試験（TOEFL、TOEIC、他）、語彙/語彙リスト、TESOL	
河合 浩志	コンピュータグラフィックス、計算力学	CAD、メッシュ生成、物理シミュレーション、社会シミュレーション	CG・シミュレーション
喜岡 恵子	安全心理学、心理統計学	ヒューマンエラー、メンタルヘルス、心理アセスメント、統計解析	産業・組織心理学
小瀬 博之	建築環境工学、環境保全、コミュニティデザイン	給排水衛生設備、水環境、生きもの育む森林保全・農業・緑化、地域活性化、川越	環境コミュニケーション
後藤 隆彰	ソフトウェア工学	ソフトウェア開発支援環境、ソフトウェア開発教育、図式プログラム、グラフ文法	ソフトウェアシステム
小松 昭吾	臨床心理学	心理アセスメント、芸術療法、投影法	心理とスポーツとIT
塩谷 隆二	計算力学、並列計算	スーパーコンピューティング、大規模シミュレーション、CAE	スーパーコンピューティング
島田 裕次	システム監査、情報セキュリティ、内部監査	ITガバナンス、IT統制、内部統制、リスクマネジメント、ITコスト管理	企業と情報
清水 高志	哲学、情報創造論、社会思想史	モノドロロジー、アクター・ネットワーク論、情報、根本的経験論	思想と表現
杉本 富利	認知科学、ヒューマンインターフェース工学	ヒューマンインターフェース、認知科学、顔認識、ヒューマンエラー、イメージ検索	ヒューマンインタフェース
多田 光利	メディアデザイン、メディアコンテンツ、映像学	メディア、デザイン、コンテンツ、映像、情報、ビジュアルライゼーション	メディアデザイン
田村 善昭	流体力学、可視化	数値流体力学、コンピュータグラフィックス、パーチャルリアリティ	数値流体力学
土田 賢省	計算機科学、ソフトウェア科学、応用システム	図式プログラム、グラフ文法、グラフ描画、アルゴリズム	ソフトウェア科学
武市 三智子	経営学、マーケティング	環境マーケティング、流通論、地域活性化	マーケティング
中林 靖	ネットワークコンピューティング、マルチメディアシミュレーション、計算力学	並列/分散処理、ネットワーク、マルチメディア、数値流体力学、逆問題・最適化	ネットワークコンピューティング
藤本 貴之	情報デザイン、メディアデザイン	デザイン、メディア、広告、映像、WEB、人工知能、ネット炎上	情報デザイン
前原 真吾	社会文化史、西洋言語文学、社会システム論、大学教育論	社会システム、コミュニケーション行為、メディア、文学、文化理論、科学技術史、大学教育	文化システム
三原 孝志	計算機科学、量子情報	計算の複雑さ、アルゴリズム、量子計算、量子情報セキュリティ	アルゴリズム
村上 真	画像情報処理	画像認識、ヒューマンインタフェース	メディア情報
湯舟 英一	応用言語学、英語音声学、認知心理学	e-learning、記憶と学習、ワーキングメモリ、速読、音読、チャンク、英語カナ表記、国際理解	グローバル情報

● 総合情報学研究科

総合情報学専攻

● 本学出身学科の例 ● 総合情報学科

情報を共通言語として異分野を統合する総合情報学と、最先端ICTの高度な専門知識・技能、行動特性を常に改善することを意識させる教育指導法により、国際的に通用する高度な専門的職業人を養成します。主要な職種として、IT企業及び様々な業種のITユーザ企業で活躍できる高度な専門的情報技術者・管理者ならびに企画者、公務員等を想定しています。関連業種として、情報通信（ソフトウェア・情報処理）、サービス業、製造業、物流業、官公庁等の就職を目指します。

理工学研究科

機能システム専攻

本学出身学科の例 **機械工学科**

技術立国とされるわが国ではものづくりのみならず機械・インフラ設備の保守・運用など、機械技術者・研究者に期待される分野はますます拡大しています。機能システム専攻では、機械工学の基礎をなす六基幹科目（材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、計測工学、制御工学）を核とする科学的・工学的知識を基盤として専門知識を深化させた上で、実験装置や試作品の設計・製作、プログラム開発等の実践的内容を含む研究活動に取り組むことで経験的・感性的側面を付加し、さらに国内外での学会発表等での交流を経験させます。特に研究を通して、答えが未知の課題を自分で見つけ設定し、解決にいたる手段を自分で探索・考案し、課題に対する答えを自分で導き出すという、課題解決能力を培います。本専攻ではこのような教育を通じ、多様化・グローバル化したものづくり等の現場で活躍できる人材の育成を目指しています。

電気電子情報専攻

本学出身学科の例 **電気電子情報工学科**

電気技術は現代文明の中核を担っており、また、関連領域は多岐に渡っています。そのシステム技術は今や複合技術であり、個々の技術あるいは一つの技術領域だけでは実現は困難です。技術者は今後益々、専門分野だけでなく関連する領域にも携わる必要があり、その対応が求められると本専攻では考えられています。

本専攻ではエネルギー・制御、エレクトロニクス、および、情報通信を軸とし、前期課程では各専門分野において、学部学科の教育課程を基盤としてその上にさらに高度な教育課程を展開しています。また、これらの三分野に加えて基礎分野を設けており、分野共通の基礎学力を強化するとともに応用力をつけるようにしています。後期課程では、最先端の科学技術の研究を通して独創力とそれを具現化する力を持った研究者の養成を行っています。このような教育と研究を通じて、高いレベルの基礎学力、専門知識、解決能力を持ち、境界領域や融合領域にも確かに貢献できる人材の育成を目指しています。

都市環境デザイン専攻

本学出身学科の例 **都市環境デザイン学科**

東日本大震災で我々が学んだ教訓から、防災、減災の重要性に加えて、震災後も全国で頻発している自然災害や近い将来の発生が予測されている大地震への対応と、エネルギーや環境問題が深刻化するなど、我々の生活を支えるインフラに関する課題が山積しています。また、人口減少・少子高齢化が進む現在、高度経済成長期に整備された道路、橋梁、トンネル等のインフラの老朽化が進行し、様々な不具合が顕在化しており、その長寿命化対策や再構築が迫られています。これに対処するためには確かな技術力と時代を先読みする力が必要です。本専攻では、技術のグローバル化の進展も踏まえ、人々が安全で安心、健康で快適な生活を支える健全な都市システムの実現と、都市の持続的な発展につながる自然との共生を実践的にデザインできる力を持つ都市環境創出のスペシャリストの育成を目指しています。

建築・都市デザイン専攻

本専攻は博士後期課程に設置され、建築学、土木工学、都市工学、環境学を基盤とした高度で発展的、独創的な研究を展開しています。建築・都市の計画、デザイン、建設、保全、マネジメント等に関わる研究や実務は、多種多様な条件を整理しながら実施されますが、そこには相矛盾する要素も多く存在します。その中で、目指す目標を堅持するとともに、他分野の課題や動向もしっかりと踏まえながら、柔軟性と創造力をもって最適解を見出し、実現に導くことのできる、高い専門性と倫理観を兼ね備えた研究者、技術者の育成を目指します。

学際・融合科学研究科

バイオ・ナノサイエンス融合専攻

本学出身学科の例 **機械工学科、生体医工学科、電気電子情報工学科、応用化学科、都市環境デザイン学科、建築学科**

本専攻は、本学バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターによる支援のもと、バイオサイエンスとナノテクノロジー分野を融合・発展させた新しい学際・融合領域を築くとともに、この学問分野の次代を担う研究者を育成しています。博士前期課程においては、Web教育や先端機器ワークショップなど、独自の実践的な教育プログラムを用意しています。また博士後期課程では、海外協定校とのダブルディグリープログラムを開設しています。種々の最先端分析・解析装置が設置されているバイオ・ナノエレクトロニクス研究センターβ棟をはじめ、充実した環境で教育研究および産学連携プログラムを提供しています。

生体医工学専攻

本学出身学科の例 **生体医工学科**

生体医工学という分野は医療・ヘルスケア分野における診断・治療機器および医薬・検査薬や、福祉・介護分野における支援機器・ロボットなどの開発を目指す、「生命科学・医学」と「工学」の架け橋となる新領域分野です。生物科学分野における基礎領域と、医工学分野の実践領域における知識と技術を幅広く修得し、問題設定・解決能力である理工学的素養を備えた人材の育成を本専攻では行っています。

生物科学分野では、健康・生活の質向上に対応する学問領域の総合的教育と研究を行います。生理学、人体の仕組み、生体防御学といった人体の仕組みに関する学際領域と生物流体力学、分子・遺伝生物学といった生物にかかわる学問領域を体系的に学びます。医工学分野では、最先端医療工学に関する総合的な教育と研究を行います。医用システム工学、生体情報工学、ナノメディスン、量子ビーム医工学など細胞、分子レベルにおける医療技術に対応する最先端工学領域を体系的に学びます。このような教育と直結する研究を通じて専門性をより深めて、産業界に貢献できる人材の育成を目指しています。

応用化学専攻

本学出身学科の例 **応用化学科**

本専攻では、化学を基礎として様々な先端分野で創造的に活躍できる広い知識・柔軟な思考力と行動力・表現力・交渉力を備えた技術者・研究者を育成しています。専攻の基盤である“化学”は、全ての科学技術分野の根幹をなす学問領域です。博士前期課程では、多様化する先端科学技術に対応可能な化学の基礎的知識の理解・習得のための講義とその実践教育を行い、博士後期課程では独創的な研究を自ら生み出す自立した研究者の養成を行っています。

本専攻では、様々な研究分野の中でも特に重要と思われる、①物質化学系、②バイオ・健康化学系、③環境化学系、の3分野の教育・研究に取り組んでいます。化学の基礎を充分解した上で、各応用分野を理解し、最先端技術を習得することに主眼を置いています。また、最先端の科学技術について学ぶため、外部研究機関の優れた研究者を客員研究員として招いています。このように本専攻では、化学の基礎を重視しつつ、最先端技術への応用も考慮したカリキュラムとその実践研究を通じて、産業界の先端科学技術分野で活躍できる専門技術者・研究者の育成を目指しています。

建築学専攻

本学出身学科の例 **建築学科**

地球的規模からひとりの人間に至るまで、幅広い視野から総合的に快適、機能的で、かつ人々の心に響く形態、空間、まちの姿を創造していくことが求められています。こうした時代や社会の要請に応え、建築、まちづくり等の各専門領域における最先端の知識と技術力、それらを総合化するプロデュース力、デザイン力、マネジメント力を身につけ、責任感と倫理観を備えた国際的にも活躍する人材の輩出を目指しています。

特に、地域づくりの核として、建築・まちに関する価値観を根本から問い直し、サステナブルでレジリエントなあり方の追及やそれを実現するための技術の開発に向け、市民や社会との関わりを重視した実践的な教育・研究活動を進めています。

2020年度 東洋大学 理工・総合情報学部 就職委員一覧

2020年4月1日現在

学 部	学 科	就職委員 (教員)	連絡先 (各学科教務室)	
理工	機械工	松元 明弘/横田 祥	TEL : 049-239-1348	2号館1階
	生体医工	山崎 享子/小山 信也	TEL : 049-239-1503	
	電気電子情報工	花尻 達郎/柴田 純也	TEL : 049-239-1324	
	応用化	井坂 和一/安藤 直子	TEL : 049-239-1370	
	都市環境デザイン	◎山崎 宏史/横関 康祐/二宮 仁志	TEL : 049-239-1391	
	建築	香取 慶一/伊藤 暁	TEL : 049-239-1411	
総合情報	総合情報	◎大塚 佳臣/土田 賢省/島田 裕次/河合 浩志/小松 昭吾	TEL : 049-239-1434	
川越事務部教学課 キャリア形成支援・就職支援室		渡辺 浩成/貝沼みどり/青木 勇	TEL : 049-239-1641	4号館3階

※教員へのアPOINTは、教員所属各学科教務室経由でお願いいたします。

※◎印は、理工学部・総合情報学部就職委員長となります。

※上記の就職委員は2020年4月1日～2021年3月31日の任期となります。2021年4月1日以降の就職委員一覧は川越キャンパス就職・キャリア支援室ホームページをご確認ください。

求人のお申込み方法について

①、②いずれかの方法でお申込みください。

2016年度より若者雇用促進法施行により、本学へ求人票をお送りいただく際には「自己申告書」の提出が必要となります。「自己申告書」がない場合は、求人票を受理できなくなる場合がございます。また、「青少年雇用情報シート」の提供も努力義務となりましたので職場情報の開示についても併せてお願い申し上げます。求人NAVIをご利用いただくとweb上で「自己申告書」、「青少年雇用情報シート」への入力が可能となるため積極的なご利用をお願いしております。

① 求人受付サイト「求人NAVI」(無料)でのお申込み方法

求人NAVIは、参加大学が共同で求人票を受付けるために構築されたインターネットサイトで、一度のデータ入力で指定大学への求人票を送信して頂くことができます。

- 内容を更新するだけで毎年求人票を送信することができます。
- 別途、紙の「求人票」、「自己申告書」、「青少年雇用情報シート」を郵送いただく必要はありません。
- 説明会更新・採用終了などは1年間を通して随時送信できます。
- 学生に対してスピーディーに情報公開できます。

求人NAVI : <http://www.kyujin-navi.com/uketsuke/>

② 求人NAVI以外のお申込み方法

以下の場合は、下記、送付先に「求人票」、「自己申告書(必須)」、「青少年雇用情報シート(任意)」をご送付ください。

●貴社指定様式の求人票でのお申込みを希望する場合

●求人NAVIでの求人登録が出来ない場合

※なお、求人票の変更や説明会日程の更新を送付される場合も、その都度、「自己申告書」のご提出が必要となります。

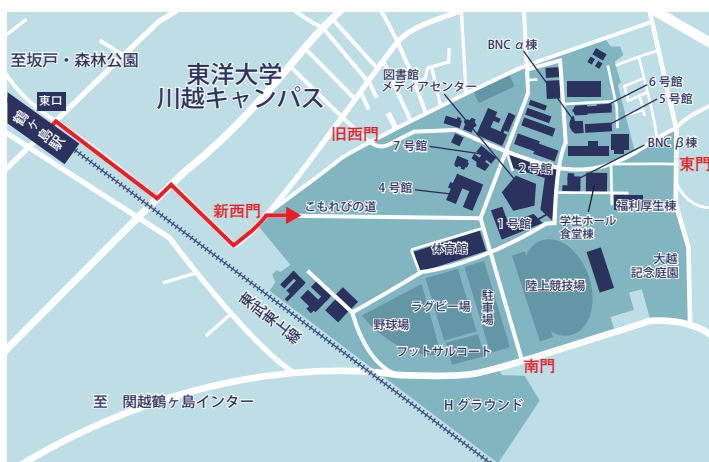
※郵送、FAX等でお申込みいただいた場合、公開されるまで1週間～10日ほどお時間がかかりますことをご了承ください。

送付先

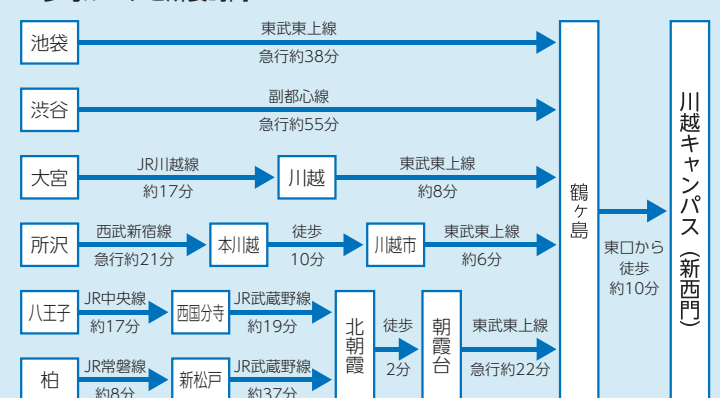
〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100

東洋大学川越事務部教学課 キャリア形成支援・就職支援室

MAIL : mlkshushoku@toyo.jp FAX : 049-239-1635



●参考ルートと所要時間



東洋大学

川越キャンパス

理工学部・総合情報学部

〒350-8585 川越市鯨井2100

東洋大学は平成26年度に(財)大学基準協会による大学評価(認証評価)を受け、「大学基準に適合している」と認定を受けました。

この認定マークは、大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることのシンボルとなるものです。

